

平成三十年九月投句

曼殊沙華初む一輪の棚田かな

響き合ふ楽の音長き夜の更けて

中秋や浅くなりけり女性帽

勝利

秋雨や玻璃の守宮の尾の螺旋

真理子

宵闇に懐中電灯来るらしく

掴みたる芋虫箸に踏ん反りて

雲間より現れ出たる鷹渡

中世の荘の名残りや稲の秋

点点になるまで高く鷹柱

節子

莊園を守り継ぐ村の曼珠沙華

由紀子

集落へ一本の道秋出水

国東に札所いくつや水澄めり

裏山は寺領に続き竹の春

藤寺と言はれて久し竹の春

光子

庭生りの紫蘇の実漬けて持たせけり